

# 宮崎県北部山間地における肉用牛繁殖生産性向上の取り組みについて



## (取り組みの背景)

宮崎県北部地域は県土の4割を占めていますが、山間地域では農用地面積が5%未満となっており、森林面積が9割を占めている肉用牛生産基盤としては厳しい状況にあります。

そのような中、県北地域での肉用牛生産農家は、厳しい条件下で生産活動を展開していくために山林を造成して牛舎の設置を行ったり、貴重な田畑を活用しながら徐々に規模拡大を図るなどの努力により増頭を図り、今日の生産地へと発展してきました。

しかしながら、肉用牛を取り巻く情勢は年々厳しくなり、これまでのハード面による整備だけでは農家の所得向上という目標達成には困難な時代となっています。

そこで、地域の関係機関が一体となった肉用牛繁殖生産性向上への取組を紹介します。

この取組は、県北山間地域の課題を解決するために3つの地域（西臼杵・東臼杵北部・東臼杵南部）ごとのモデル農家を選定し、その関係機関で構成するプロジェクトチームによる巡回指導を行うもので、モデル農家の成績向上を図ることが目的となっています。



### 各地区モデル農家の設置

**西臼杵地区** ※現在3集団目(累計18戸)  
 モデル農家: 6戸(16~50頭規模) H14~3年つつ指導  
 巡回間隔: 月1回(各月の下旬)  
 関係機関: JA高千穂(事務局)・西臼杵普及センター・延岡家保・共済

**東臼杵北部地区** ※SAPが中心  
 モデル農家: 9戸(10~43頭規模) H17~継続中  
 巡回間隔: 月1回(各月の下旬)  
 関係機関: 東臼杵北部普及センター(事務局)・延岡家保(共済)・JA延岡

**東臼杵南部地区** ※SAPが中心  
 モデル農家: 7戸(14~60頭規模) H20~継続中  
 巡回間隔: 月1回(各月の中旬)  
 関係機関: 東臼杵南部普及センター(事務局)・延岡家保(共済)・JA日向

## (取り組み内容)

各関係機関は、巡回指導における役割分担を行っていますが、巡回指導の中心となっているのは各地域普及センターと延岡家畜保健衛生所です。また、その後の支援としてJAや人工授精師、共済組合などが一緒になって農家指導を行い、行政はその巡回内容や農家の課題、成果などをもとに事業支援や波及効果を狙ったPRを行います。

このように関係機関が巡回指導内容の情報を共有することで、対象のモデル農家に対しての指導方向の一貫性を狙った取り組みとなっています。

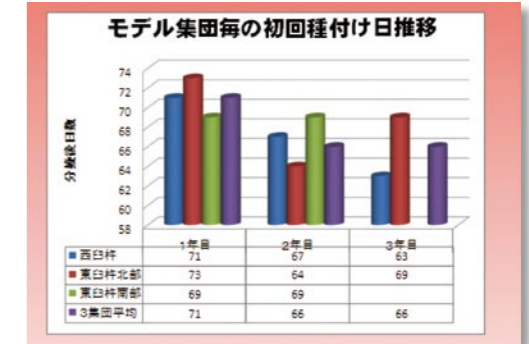
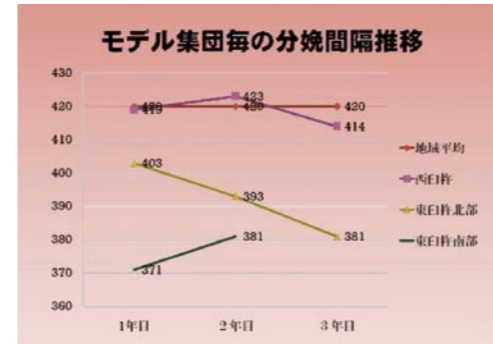


超音波診断機による繁殖検診(家保)



技術員による子牛発育調査

## (取り組みの成果)



この活動を継続して行うことで、集団毎に成果がありました。特に繁殖成績については、3年後には平均分娩間隔が5日~22日間短縮することが出来、初回種付け日数についても巡回当初は、分娩後71日だったのが3年後には66日目へと短縮しました。これは定期的な巡回指導がモデル農家への刺激となり、生産者による観察能力が向上し、繁殖の生産性向上が図られた成果となっています。

また、この成果や課題を各地域毎にモデル農家を交えての検討会を行っています。こうした成績検討会を行うことで、その農家に対しても技術員が一体となって支援を行っていることが伝わり、更に巡回指導に対する農家の意識が向上することが出来ました。

## (その他の支援)

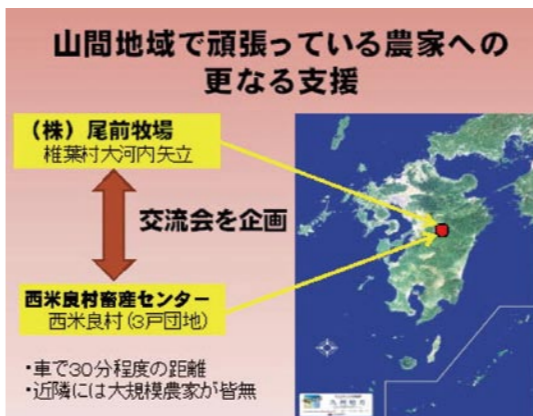
その他の支援として、県北の中でも特に急峻な山間地域では、近隣の農家との距離が遠く、農家間の交流が難しい状況にあるため、東臼杵と児湯の農林振興局が主体となり2つの農場間交流会を開催しました。交流したのは、椎葉村矢立の(株)尾前牧場(200頭規模)と西米良村の畜産センター(3戸団地各35頭規模)。この2つの農場は、同じ山間地域にあり車で30分程度の比較的近い距離にありますが、JAや家畜市場が違うため日常では顔を合わせる事のない農場同士です。

この交流会では、お互いの農場を関係機関と一緒に見て回り、意見交換や課題への対応などを話し合ったりするなどを徹して交流を図ることが出来ました。

宮崎県としても、このような山間地域で肉用牛を支えている農家への技術指導や、情報発信などの役割が十分果たせるよう、関係機関と一体となり、今後とも支援していく予定です。(宮崎県東臼杵農林振興局 畜産担当)



モデル農家との成績検討会風景



## 山間地域で頑張っている農家への更なる支援

(株)尾前牧場  
 椎葉村大内矢立

交流会を企画

西米良村畜産センター  
 西米良村(3戸団地)

・車で30分程度の距離  
 ・近隣には大規模農家が皆無



交流会の様子